

公益財団法人知床財団と包括連携協定を締結

本学と公益財団法人知床財団との包括連携協力協定の調印式が、6月15日(水)、本学第2会議室で行われ、谷山弘行学長と関根郁雄理事長が協定書にサインをしました。公益財団法人知床財団とは、これまで「知床・釧路湿原実習」の学生受け入れ、連携プロジェクトによる共同研究、卒業論文の調査受け入れ、知床科学委員会への参加等の交流を続けてきました。

今後さらに連携を強化し、知床の生物多様性保全の研究や教育に関する相互の情報交換、知床の自然環境に関する協働での研究支援に伴う事業水準の高度化、宣伝効果の向上、外部資金の獲得、財団職員による地域での実学教育支援、教員による野外講義の実施、学生による環境普及啓発事業の実施といったことを推進していきます。



調印式で谷山学長は「酪農学園大学は、4月から2学群5学類という教育体制にし、農、食、環境、生物の4つのキーワードで、次世代を担う若い人たちを育てていこうと考えています。知床財団は世界遺産知床をバックグラウンドに活動されており、世界遺産という意味合いを学生にも理解してもらい、それを将来にどう引き継いでいくか、より良い自然と人間の関係をいかにして構築していくか、連携協力協定の中で育てまいりたく、2学群5学類という大きな領域で、全学的な取り組みにしていきたい」と挨拶しました。



関根郁雄理事長は「1988年に斜里町で設立され、一貫して知床の自然活動を守る、伝える活動を行ってきました。2005年に世界遺産に登録されたことにより、羅臼町の参画も得られ、知床半島全体を包括的に保全管理できる体制を確立できました。4月から公益財団法人としての認定を受け、様々な協力支援体制が広がっていくと思います。酪農学園大学は食と農ということをテーマにしており、それに合わせて環境、生物ということも重視しており、私どもの活動を広めていただけるものと感じ、今回の協定を意義のあるものと感じております」と挨拶しました。

